釧路市教育委員会　平成３０年第１２回８月定例会会議録

１　日時：平成３０年８月２４日（金）１３時３０分から１５時３０分まで
２　会場：釧路市教育委員会室
３　出席者
　　岡部義孝教育長
（教育委員）
　　山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
（事務局）
　　高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、江縁学校教育部次長、
　　藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、小野施設計画主幹、
　　土江田総括指導主事、坂本青少年育成センター所長、仲谷学校教育課長、
　　米田学校給食課長、澤口生涯学習課長、松本オープンカレッジ推進主幹、
　　永井美術館長、工藤スポーツ課長、北澤国体推進室長、
　　佐藤博物館長、古賀動物園長、山田音別生涯学習課長
４　議事録署名人　　山口委員、小出委員
５　傍聴人数　　０人
６　提出案件
【公開案件】
議案第４１号　平成３１年度に使用する小学校用教科用図書（道徳以外）の採択について
議案第４２号　平成３１年度から使用する中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択について
報告事項
（１）釧路市民文化会館ネーミングライツスポンサーの募集結果について
（２）釧路市中央図書館の利用状況等について
（３）第４６回釧路湿原マラソンの開催結果について
（４）釧路市丹頂鶴自然公園開園６０周年記念イベントの開催について
（５）学校の現状について

７　会議内容

【公開案件】
議案第４１号　平成３１年度に使用する小学校用教科用図書（道徳以外）の採択について
議案第４２号　平成３１年度から使用する中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択について

（仲谷学校教育課長）
平成３１年度に使用する小学校用教科書（道徳以外）と平成３１年度以降使用する中学校用道徳の教科書のこれまでの選定作業の経過についてご説明する。
まず、６月１１日に釧路町との第２０教科用図書採択地区教育委員会協議会を開催し、今年度の教科書採択事務の内容や日程等について協議を行った。
そのなかで、小学校用の教科書については、平成２９年度の文部科学省の検定において新たな教科書の申請がなく、採択対象となる教科書については平成２６年度の教科書採択時に調査研究がなされていることや、学習指導要領の改訂に伴い使用期間が平成３１年度の１年間のみであること、また、平成２７年度から４年間使用した実績において支障が無かったことから、教科書の調査研究を行わず、現在使用している教科書を継続して使用することを確認したところである。
中学校用道徳の教科書については、釧路町と合同で教科書の調査研究を行うことを決め、本委員会において委嘱を決定した釧路市の調査委員７名と、釧路町の調査委員３名、計１０名の調査委員により教科書見本等について調査研究を行っていただいた。７月３日に開催した第１回目の合同調査委員会以降、約１か月にわたる調査研究の結果について、８月９日に開催した第２回合同調査委員会において、「教科用図書採択参考資料」として答申をいただくと共に、内容について各小委員会から教育委員へ説明が行われた。
その後、釧路市教育委員協議会を開催し、釧路市教育委員会としてのそれぞれの教科ごとに教科書を選定した。
同日に開催された第２０教科用図書採択地区教育委員会協議会において、岡部教育長出席のもと、教育委員協議会で選定した教科書を候補として提示し、その結果、道徳以外の小学校用の教科用図書と中学校の道徳の教科書について、釧路市の選定教科書と釧路町の選定教科書が一致した。したがって、教育委員協議会で選定した内容からの変更はない。
それでは、第２０教科用図書採択地区教育委員会協議会での決定を踏まえ、平成３１年度に使用する小学校用教科書及び平成３１年度以降使用する中学校用道徳の教科書についてご説明する。
小学校用教科書については、道徳以外は現在使用しているものを平成３１年度も使用する。
中学校用道徳の教科書について、発行者は東京書籍、使用学年は１学年から３学年、教科書名は「新しい道徳」となっている。
続いて、特別支援学級の児童生徒が使用する教科書である。

第２０地区教科用図書採択地区教育委員会協議会における決定の内容は、基本は当該学年の普通学級で使用する教科用図書を特別支援学級の児童生徒においても、教科用図書として使用することになるが、それが適当でない場合については、児童生徒に適した教科用図書を選定することとしている。

なお、いずれかの教科書を選定、使用するにあたっての留意事項についても、調査委員会の報告内容のとおり採択に付記することとしている。

また、情報公開については各会議の会議録や採択結果及び採択理由を９月１３日（木）より市のホームページで公開したいと考えている。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

【公開案件】報告事項

（１）釧路市民文化会館ネーミングライツスポンサーの募集結果について

（澤口生涯学習課長）

このたび、釧路市民文化会館において、ネーミングライツスポンサーを公募した結果、株式会社リライアブル１者から応募があった。

この応募を受け、選定委員会により株式会社リライアブルから提案された施設の愛称等について審査した結果、同社を優先交渉権者として決定し、ネーミングライツの契約をするものである。

施設の愛称については、「コーチャンフォー釧路文化ホール」となり、契約期間は２０１８年９月１日から２０２２年３月３１日までの、３年７ケ月となっている。

ネーミングライツ料は年額１００万円以上としていたところ、１，９１７，３８０円となり、これは市民文化会館の維持管理に役立てていくこととなる。

今後、市民文化会館の愛称である「コーチャンフォー釧路文化ホール」が、施設を利用する文化団体をはじめ、広く市民の皆様に親しまれるものとなるよう、広報くしろや市のホームページ等を通じて、周知に努める。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

コーチャンフォー釧路文化ホールという名前に変わった時、釧路市民文化会館という表示がある看板等は使えなくなるのか。

（澤口生涯学習課長）

あくまでも愛称なので、看板等はそのまま使用する。入り口が３か所あるのでその部分に新名称の看板を掲げることを予定している。

（松尾委員）

ネーミングライツ料を年額１００万円以上としていたところに１９１万となっており、大変ありがたいことだと思うが何か経過はあるのか。
（川畑生涯学習部長）
道内の類似施設を比較したときに１００万円程度だった。応募された事業者の方からは、月額が１４７，９４６円（良いよな釧路）というゴロのいい額を設定し、その１２か月分となっている。予定より非常に大きな額なので充分に役立てていきたいと考えている。
（種村委員）
名前について、コーチャンフォーという固有名詞は使って大丈夫なのか。
（澤口生涯学習課長）
ネーミングライツはそういった名前を付ける権利を与えているので、問題ない。募集の段階で対象外になるものは記載して公募している。
（山口委員）
市民文化会館がこういった形でスポンサーから維持管理費をもらえるとなれば、湿原の風アリーナや市民球場も今後全く考えられないということではないのか。
（澤口生涯学習課長）
可能性はある。

【公開案件】報告事項
（２）釧路市中央図書館の利用状況等について

（澤口生涯学習課長）
釧路市中央図書館については､本年２月３日に北大通の新釧路道銀ビル内に移転･開館し、６か月が経過したところだが、貸出人数や貸出冊数など、利用状況について取りまとめたので、ご報告する。
はじめに利用者数について、本年２月から７月まで６か月間の合計で９５，４５９人に利用されており、昨年同期の３３，７５２人との比較で約２．８倍の利用者増となっている。
図書の貸出人数については、約１．８倍の増となっているが、７階に設置した個人学習室４７席の利用が特に多く、設備が異なる旧図書館との単純比較はできないものの、延べ利用人数で１０倍以上の増であり、利用の中心となっている学生など、利用者皆さんが落ち着いて学習できる環境が整ったものと考えている。
また、６階に新設した釧路文学館の入館者数については、延べ人数で１０，４５７人となり、各文学団体のご協力をいただきながら順調に運営を行っており、今後も企画展示の内容に合わせた朗読会や講演会などの関連事業を実施し、文学に対する市民の関心がより高まるような事業展開を図っていきたいと考えている。
次に、中央図書館が開館してから貸出利用者の年代構成に変化が見られたので、あわせてご報告する。
中央図書館開館以降、これまで利用が少なかった１０代から４０代の利用割合が高くなっ

ており、特に１０代以下のお子さんと３０代から４０代の女性の利用が増えている。
　これまで利用しづらかった子育て中の方や親子で図書館を利用される方々が増えたものと考えており、授乳室の設置や児童スペースの充実など、ハード面の整備と合わせてブックスタートや子ども読書活動への取組の成果があったものと考えている。
　また、これまで利用者の中心であった、５０代から７０代の方についても、全体における構成比は下がっているが、人数自体は昨年同期と比べて増となっており、幅広い年代層にご利用いただいているものと考えている。
　最後に貸出冊数についても、開館後６か月の貸出冊数合計が１８２，８４２冊となっており、前年同期の６か月間と比較して約１．４倍の増となっている。
　現在、経常的な資料購入費のほかに、釧路市中央図書館開館記念事業協賛会からの寄附などを活用し、資料の充実に努めているところである。
　今後も蔵書構成を考慮しながら適切な選書を行うことで図書館資料の新鮮さを保ち、利用者ニーズに合った資料の充実に努めていきたいと考えている。

◎この報告について各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）
　非常に順調な滑り出しであるということを含めて、平成 30 年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会出席時に釧路中央図書館を全道に教育長も含め５人で PR してきた。特に学校図書館との連携ということで、中央図書館が一生懸命学校の図書館を充実させるために、尽力してくれているというところを他の地域の方々もメモを取りながら聞いてくれていたということもあり、大分 PR できたのではなはいかと思う。あとは、全道の傾向としても一番本を読んでもらいたい年代層の利用がどの図書館も凹んでいるという悩みが述べられており、１０代～４０代特に学生の利用が増えているという報告を受けて、他都市に釧路市の情報を提供することは可能ではないかと思う。
　質問だが、図書館を道銀ビルに間借りする形でもってきたのは、中心街の活性化に少しでも役立てるためにそうしたと思うが、中央図書館の入館者数が増えているということは、それだけ中心街も活性化されてきているのではないかと思うので、ぜひ中心街が中央図書館ができたことによって、どのように活性化しているかのデータ取りは市役所の他の部署と連携を取りながら蓄積してほしいと思う。そこから見えてくる中心街の活性化への手だても見つかるかもしれないのでぜひお願いしたいと思う。
（澤口生涯学習課長）
　市街地活性化の一面も持っているので、市役所の担当部署とも相談しながら、また商工会議所を通じて、商店街組合とも相談しながら連携できる事業をできることから始めようということで、まずは避難訓練や地域のゴミ拾い、商店街のイベントに図書館が参加したり、図書館のイベントに地域の商店街が参加するというところから取り組もうとしている。
　また、データ取りについてもどのようなデータが取れるのかというところで検討している

ところである。
（種村委員）
　活性化に関して、今年の２月に開館したときに見学させてもらったが、北大通にこれだけ素晴らしい施設が建つのかと非常に驚いたところである。北大通にこのようなアカデミックな建物が建つことによって、いろんな面でプラスになることが出てくると思う。
（山口委員）
　全道の図書館運営について、指定管理者制度が広まりつつある。恵庭の指定管理者も釧路の旧図書館で指定管理者に入っていた同じ指定管理者が入っている。地元の手による指定管理ということを目指して、今の中央図書館は地元の人たちがスクラムを組んでやっているという話をしたときに、プロの手による運営ではなく素人の手による暖かみのある運営を目指しているという話もしてきた。
（小出委員）
　学校図書館と中央図書館の連携について、小学校と学校図書館との連携については充実してきているのを、図書ボランティアをやっているのですごく実感している。それと比べて、中学校の連携があまりできていないと思っている。中学校の図書館を見せてもらう機会があったときに、学校によって差があったり、充実しているところもあればそうでないところもあったりするので、その差をどうやったら埋められるのか、というところは学校に丸投げして、教育委員会としては、学校から言われなければ協力できないという形になっているのか。
（山口委員）
　中央図書館に学校からリクエストがあったら、中央図書館には専属のスタッフも配置していて、学校のリクエストに応えようという姿勢は中央図書館側にはあると思う。
（土江田総括指導主事）
　やはり小学校は入りやすいというところもあり、小学校と中央図書館との連携はますます進んでいると思う。中学校はなかなか難しいところではあるが、声掛けはしていきたいと思う。蔵書に関しては、教育委員会としても一定水準を保てるように、毎年増やしているので、学校に丸投げして学校が勝手に増やすわけではない。
（小出委員）
　冊数の把握以外に本の内容等は把握しているのか。
（藤岡総務課長）
　内容も把握している。図書の予算を各学校につけており、どういう図書を買ったかということは、総務課で把握している。併せて、学校図書館のシステム化については図書ボランティアの協力等により進んでいるところもあるが、現時点で８校導入がされていない学校があり、総務課の方で順次電算化するよう指導を行っているが、その８校以外でも電算化した時点で止まっているところもある。そのような学校も併せてすべての学校が電算化した時点で、総務課より改めて電算化も含めて各学校図書館の足並みを揃えて、中央図書館との連携をより一層強めていきたいと思う。
（松尾委員）

予算がないという話を聞いたときに、予算は蔵書を増やすためのものだと思うが、実際に子どもたちが本を読むのは数が増えればいいというものではなく、どれだけ興味のある本があるか、イベントを組むことではないかと思う。他市でもブックスタートに力を入れているところもあり、釧路市でもパンフレットを配ったりしている。小さい町だとは思うが、トートバッグに本を入れて、健診に来たときに貸すというところもあった。小さい子どもたちが、最初に本を読んで楽しいと感じるという思いがずっと続いていくことが大事だと思う。釧路は指定管理なので、自分がどれだけ中身に口を挟んでもいいかはわからないが、芦別市でぬいぐるみの図書館、お泊り会というものがあり、子どもの大好きなぬいぐるみを図書館に預けると、そのぬいぐるみが本を読んでいたり、貸出業務をしていたり、いろんなぬいぐるみがお仕事をしているところを何枚か写真に撮って、ぬいぐるみと一緒に返す。子どもは自分の大好きなぬいぐるみの写真を見て、興味をひかれて自分も図書館に行きたいと思うようになる。このように、いろんなイベントをやっても人が集まらないのであれば、さらに魅力的なものを考えるということでは、図書館だけではなくいろんなことに必要なのではないかと思う。

（山口委員）

先ほど小出委員が中学校の図書館について話していたが、各都市の話を聞いていて釧路市内も１２学級以上のところは司書教諭を配置しなければならないということになっており、１００％配置されている。釧路市内に司書教諭の資格を持っている先生は潜在的な部分も含めて１００名以上いるらしい。しかし、その先生方が、担任をやっていたり授業をしたりして、司書としての仕事ができない現場の状況があるようで、図書館の運営や設営、読書活動の充実させるために、司書の仕事をきちんとやるためには、司書教諭ではなく学校司書を配置しなければならない。学校司書を配置すると、中学校の図書館運営も充実するのではないかと思う。しかし、学校司書は国や道レベルで人数として配置してくれないため、もし現状で配置するためには、単費で配置しなければならないのでお金がかかる。これはなかなか難しいと思うが、もう一つは司書教諭の資格を持った先生を加配でその学校につけてもらえれば、市の持ち出しはないが、道や国は首を縦には振らないと思うのでそのあたりが他の地域の悩みとしても挙がっていたし、同じ課題として釧路も共有してきたところである。

【公開案件】報告事項

（３）第４６回釧路湿原マラソンの開催結果について

（工藤スポーツ課長）

７月２９日（日）に第４６回釧路湿原マラソン大会が、朝方の雨も上がり爽やかな気候の中、開催された。

今大会には、３，７２７人の参加申込があり昨年度より１５８人減の申込となったが、当日の実参加者は昨年とほぼ同数の３，４１３人（昨年３，４２６人）となったところである。一方では、一昨年には「全国ランニング大会１００撰」に選ばれたこともあり、道外からの

参加申込は増加しており、夏のマラソンでありながら冷涼な気候の中、湿原の心地よい風を感じながらマラソンを楽しむことができる大会であることが広まっているものと感じている。

天候については、２０度前後の釧路らしい爽やかな気候条件の中で各種目スタートすることができたが、日中は気温が上昇し、朝方の雨の影響もあり湿度が高く、気温以上に暑さを感じたことから、救急搬送された選手が５人いたが、大事には至らず、その日のうちに自宅へ戻ったと聞いている。

今年は、４月の第１２２回ボストンマラソンにおいて、優勝した埼玉県庁の公務員ランナーである川内選手が２年ぶり８回目の参加となり、招待選手として大会を大いに盛り上げていただくとともに、ボストンマラソンの金メダルを参加者に披露するなど、参加者とも触れ合いの時間も多くあり、参加者にとって思い出に残る大会になったもとと感じている。

大会後には、川内選手から一般登録者の中に実業団選手が参加しているなど、大会レベルが年々上がっているとの発言があり、夏のマラソン大会として、ポテンシャルの高さを認識させられたところでもある。

また、今年も日本製紙クレインズの選手が３キロにゲストランナーとして参加いただき、ゴール後には､待ち受けていた多くのファンがクレインズ選手と一緒に写真を撮影するなど、市民皆さんとふれあう光景が見られた。

本事業の実施にあたり、早朝より、１，０００名を超える市民ボランティアの方々や市内の高校生､関係機関･団体に大会運営のスタッフ等として格別のご協力をいただいたことに、改めて感謝を申し上げる。

今後とも釧路湿原マラソンが市民はもとより、全国各地から多くの方々に参加いただける魅力あるスポーツイベントとして発展するよう、さらに運営面などの充実に努めてまいりたいと考えている。

◎この報告について各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

今回川内選手と弟と母親も来られたと聞いたが、母親も走ったのだろうか。

（工藤スポーツ課長）

走っている。昨年度も走っていただいた。

【公開案件】報告事項

（４）釧路市丹頂鶴自然公園開園６０周年記念イベントの開催について

（古賀動物園長）

８月２７日（月）に丹頂鶴自然公園は開園６０周年迎える。

そこで､「鶴公園の６０年とこれから」と題するイベントを８月２７日（月）の午後２時より行う。

イベントでは、鶴公園のタンチョウ飼育を担当している高嶋賢治主査による６０年の歩みについての発表のほか、高橋良治名誉園長と動物園長との対談「鶴公園いまむかし」を行い、６０年の歴史を振り返る。参加には入園料が掛かるが、多くの市民の皆様にご参加いただきたいと思っている。

◎特に意見はなし。

【公開案件】報告事項
（５）学校の現状について

（土江田総括指導主事）
昨年の夏休みは、庶路中学校の３年生徒が交通事故により命を落とすという痛ましい事案があったが、今年は事故そのものの報告もなく夏休みが終了し、春採中学校を除き、８月２１日（火）より２学期がスタートしている。
初めに釧路市青少年問題協議会の開催について報告する。
釧路市いじめ防止基本方針の策定により、いじめ問題対策連絡協議会としての位置づけを兼ねた釧路市青少年問題協議会が７月２３日（月）に開催された。いじめの認知件数や学年が進むにつれて相談しない児童生徒の割合が高くなるなど、昨年度の釧路市小中学校のいじめ問題の実態について、意見交換を行った。
今後、弁護士などの学識経験者からなるいじめ対策委員会を開催し、釧路市や学校のいじめ防止対策等に対する意見をいただく予定である。
未だにいじめが要因の一つと思われる自殺事案が報道されている。対策委員会で出された協議内容に関する情報提供をとおして、各学校がこれまで以上に組織的にかつスピード感のある対応の必要感を常に持ち続けるよう、努めていきたいと考えている。
次に全国学力・学習状況調査結果の活用について報告する。
今年度の全国学力・学習状況調査結果が７月３１日（火）に文部科学省から公表され、教育委員会では、第２回釧路市基礎学力検証改善委員会を開催し、全市的な調査結果の分析・考察と併せて今後の改善策を検討しているところである。
８月２７日（月）の校長会議において、各学校の学力向上担当者を集めた学力向上セミナーⅡの内容に触れながら、今後、自校の結果を分析し、保護者に対する説明責任をしっかり果たし、具体的な学力向上プランについて、これまで以上に組織的な取組がなされるよう要請したいと考えている。
次に夏休み中の補充的な学習サポートについて報告する。
この夏休みの補充的な学習サポートの参加状況については、小学校参加者数はのべ８，１２９名、参加率４６．５％、中学校参加者数はのべ４，０５０名、参加率２４．２％となった。
夏休み前にお願いした真に学力向上が必要な児童生徒の参加については、小学校約７７％、

中学校約６２%の参加率となったところであり、今後工夫の必要性を伺うことができる。
　最後にくしろの子ども大集合の開催について報告する。
　このことについては、７月の定例教育委員会でもご報告したが、９月１日（土）に釧路市民文化会館にて「くしろの子ども大集合」が開催される。是非委員の皆様方にも足を運んでいただきたい。

◎この報告について各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）
　いじめの件について報告を受けたが、いじめ発見のきっかけはアンケート調査による事案が多いという記述があり、釧路市独自にアセスやＱ－Ｕで調査を行っていると思うが、一人ひとりの子どもの実態を的確に把握して適切な指導をするため、それがいじめ防止にもつながるし、一人ひとりの子ども学力向上にもつながるということで毎年予算付けしてもらっている。いじめの発生件数は人間の集団の中ではゼロにすることはなかなか難しいと思うが、起こった時に、できるだけ早い的確な手を打って、最悪な事態だけは免れるということからすれば、早期の適切な指導という部分では、アセスやＱ－Ｕは十分機能していると思うが、認識はどうか。
（土江田総括指導主事）
　アセスとＱ－Ｕについては、取り入れてから年数が経っており、学校でも分析の仕方やその子どもその子どもの見方に関してかなり熟知しているところである。また、検査を行うだけではなく、その後個人個人の面談をしっかり行うなど日程的な計画もしっかりなされていて、毎年的確に行われているものと認識している。
（山口委員）
　夏季休業中の補充的な学習サポートについて、私たちも今年は愛国小学校と美原中学校に訪問させてもらった。その中で感じるのは、総括から工夫の必要を感じるとの報告があったが、こんないい取組をやっているのだったらぜひほかの学校でもこういうやり方をすればいいのにというように思ったり、やり方について悩んでいるようだが、あの学校のやり方を参考にすればいいのにと感じる学校も中にはある。どういうレベルで情報交流したら一番効果的なのかは検討してもらいたいが、各先生方が一生懸命行っているのでその効果的な実施方法について情報交流するような場面があってもいいのではないかと思うがどうか。
（土江田総括指導主事）
　まずは管理職に投げかけるところから始めて、実際に運営しているのは教務の先生だと思うので、教務の先生方が集まってそれぞれの学校の現状等について交流する機会が年に２回あるので、その中でもこの件について交流できる場面を設けたいと思う。